

## 構成員からの提案事項

(発表予定順・敬称略)

提案者	報告事項	ページ
どうした だいじ 堂下 大地	○ スローライフでクリエイティブな仕事を求める企業の誘致 ○ インバウンドの強化策について	1
あかがわ やすまさ 赤川 安正	○ 革新的な和食調理学校の誘致	5

※ 発表順は、変更になる場合があります。

※ この資料は、くれワンダーランド構想の推進に向けて、当会議において活発な意見交換を行っていただくことを目的として、各構成員に自由な提案をお願いし、作成いただいた提案資料です。資料の取扱いに留意いただきますよう、お願いします。

## くれワンダーランド構想に向けた取組について

【構成員の名前】 堂下 大地
【提案する取組の名称】 スローライフでクリエイティブな仕事を求める企業の誘致
【取組の概要】 <ul style="list-style-type: none"><li>この件も以前私が発表したことですが、2月14日付の中国新聞に「流通システム開発販売のビジコム（東京）が、今夏柳井市の廃校にサテライトオフィスを開設し、本社の事務処理機能などを移して開発拠点にする」という記事が掲載されていました。記事によれば、代表者が岩国市の出身で、「海が見える立地が一番の決め手」だったそうです。</li><li>広島県でも中山間地域振興課が「チャレンジ里山ワーク」という取組みを展開しておられますが、ホームページを見る限りでは、三原、庄原、江田島、安芸高田、大崎上島、神石高原は紹介されているものの、残念ながら呉市は紹介されていません。</li><li>呉市は既に別の方法で取組んでおられるのかもしれませんが、海が近くにあって温暖で食べ物が美味しく、広島市にも近いという点では、前述の市町より魅力的だと思います。 観光関連や農漁業従事のための移住だけでなく、様々な産業と人材を受け入れることは今後の呉市の発展のためにも重要なことだと思いますので、是非企業誘致に力を入れていただきたいと思いますが、そのためには、柳井市のように地元出身の経営者から当たってみては如何でしょうか。</li></ul>
【添付資料】 なし

## くれワンダーランド構想に向けた取組について

【構成員の名前】 堂下 大地
【提案する取組の名称】 インバウンドの強化策について
<p>【取組の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の会議でNYタイムズの「今年行くべき52か所」の7位に「瀬戸内の島々」が選ばれたことに関する市の取組みを質問しましたが、思いつきで質問したため自分の考えを整理できていませんでしたので、改めて意見を述べさせていただきます。</li> <li>・ NYタイムズの記事は添付資料のとおりですが、広島市と尾道市は紹介されているものの、残念ながら呉市のことは全く触れられていません。これはとても残念なこととして、海外の人たちにもっとこの地域の素晴らしさを知っていただき、「行ってみたい!」と強く関心を持ってもらうために以下のような取組みを行うことを提案します。</li> </ul> <p>① 英語による情報発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネットで瀬戸内海の街を英語で紹介している記事や動画を検索してみると、例えば尾道に関しては英語の記事が多く、YouTubeにも観光協会が制作した動画等がアップされていますが、呉に関するものはさほど多くありません。</li> <li>・ 呉の場合も、市のホームページや呉氏のビデオなどで写真や動画のコンテンツは揃っているのですから、お金をかけずに英語の解説やナレーションを入れて外国人向けの情報発信を充実させはどうでしょうか。特に当地は広島から日帰りで来れますので、英語版のモデルコースをいくつか紹介すればより効果的ではないかと思います。</li> <li>・ なお、英語版の作成に当たっては、Native Englishで制作することが肝心です。当地では、地域おこし協力隊員だった奥様と一緒に御手洗へ移住された写真家のトム宮川コールドンさんが積極的に活動を展開しておられ、既に多くの外国人の方々を呼び込んでおられますので、そういった方々の力を結集すれば外国人の心をつかむ魅力的な情報発信ができるのではないかと思います。</li> </ul> <p>② アクセス情報の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 呉に興味を持ってもらえたら、次は呉へのアクセス方法も英語で簡単に検索できるようにする必要があると思います。特に外国人に知られていない島嶼部へのアクセスにはバスが欠かせませんので、とびしまライナーも含めて英語版の整備を運営会社にお問い合わせはいかがでしょうか。</li> <li>・ また、1日周遊券や観光施設とのセット券なども企画してもらえるとより効果的です。特に下蒲刈の蘭島閣美術館、松濤園、白雪楼は外国人に喜ばれると思います。</li> </ul> <p>③ “東の玄関口”の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回NYタイムズも紹介したように、しまなみ海道には世界からサイクリストが集まってきていますし、ウサギの島(大久野島)を訪れる外国人も後を絶ちませんが、これらの外国人は、尾道や竹原に戻るか四国に渡ってしまい、大崎下島に渡ってくる人はほとんどいません。</li> </ul>

- 従って、これらの東部地区の自治体や観光協会、海運業者の方々と連携して、英語版のアクセス案内やモデルコースを作成して、“東の玄関口”を整備してはどうでしょうか。
- 特にとびしま海道では、御手洗の井上さんなどががんばっておられますが、宿泊・飲食施設がまだ十分ではありませんので、大崎上島の清風館や竹原・三原、大三島・今治のホテルや宿泊・飲食施設などと連携して、『島伝いに移動しながら瀬戸内の多島美と食・文化を満喫してもらう旅』を提案できれば、外国人観光客に十分満足してもらえenと思います。

#### ④ アクティブ・体験型観光の充実

- 先日、住宅政策課が開催された空き家対策セミナーで、下蒲刈島の梶が浜でレンタサイクルなどの事業に携わりながら「ウルトラマラニック」を成功させた地域おこし協力隊 OB の高島さんの講演を聞いて、以前私が提案した考えを実践しておられる方がいることを知り、大変心強く感じました。
- 高島さんは、現在農業体験のための「農泊」も企画されているようで、既に呉市などと相談されているようですので、是非実現していただきたいと思います。また、本年度は豪雨災害の影響で「とびしまマラソン」と「オレンジライド」が中止になりましたが、ウルトラマラニックに続いて来年度は是非再開していただきたいと願っています。
- なお、サイクリングに関しては、外国人旅行者はレンタサイクルの利用が多く、高島さんも「とびしま海道には既に2,000台あるので下蒲刈でも今後増やしたい」とおっしゃっていました。ただ、③で述べたように島伝いに移動しながら楽しむためには、港などの拠点に配車・乗り捨てできるサービスが必要になりますので、こうした体制づくりに行政機関も協力していただきてしまなみ海道ととびしま海道の広域で展開できれば、外国人だけでなく日本人旅行者にも喜ばれると思います。

#### 【添付資料】

NY タイムズの記事



## The New York Times “52 Places to Go in 2019” No.7 “Setouchi Islands”

Japan’s ancient Setouchi region, which includes the Seto Inland Sea’s islands and coastal areas, will host the Setouchi Triennale 2019, a major art fair held in three seasonal installments; sites in 2019 include the less-frequented islands of Teshima and Honjima, where you can better experience the balance of nature and art.

One hour south of the “art islands” via ferry or the Shinkansen bullet train, the Hiroshima Peace Memorial Museum, one of Japan’s most visited sites, reopens in spring 2019 after an eight-year, \$51 million refurbishment.

Setouchi is also looking to draw a fresh crop of cyclists, with new trails winding through local citrus and olive groves and a dedicated Shimanami bike ferry that opened in October 2018 connecting Japan’s main island of Honshu to the region’s lesser-visited island of Shikoku.

For those seeking more sybaritic forms of transport, late 2017 saw the maiden voyage of Guntu – more a minimalist floating ryokan than a cruise ship complete with 19 walnut-clad rooms and open-air cypress soaking baths.

In 2019, Setouchi Sea Planes, Japan’s only sea plane company, will expand its scenic flights to several smaller islands and towns via a fleet of Kodiak 100s.

And a Japanese start-up company called Ale launched literally the Shooting Star Challenge, a microsatellite that will create the world’s first artificial meteor shower, aiming to fill Setouchi’s skies in spring 2020, a taste of the high-tech one-upmanship to come in Tokyo’s 2020 Olympics. (ADAM H. GRAHAM)

瀬戸内海の島々や沿岸地域を含む日本の瀬戸内地域では、3年おきに開催される大規模なアートフェア「瀬戸内トリエンナーレ 2019」が開催されます。2019年の会場には、人々があまり訪れない豊島と本島が含まれており、自然と芸術のバランスをよりよく体験することができます。

「芸術の島々」からフェリーや新幹線で南に1時間のところには、日本で最も訪問されている場所の1つである広島平和記念博物館があり、5100万ドルと8年の歳月をかけた改装を終えて2019年春に再開します。

瀬戸内はまた、柑橘類やオリーブ畑を縫って走る新しいトレイルや、2018年10月に就航した自転車専用フェリーで本州と四国のあまり訪れない島とを結ぶことにより、サイクリストの聖地となることを目指しています。

さらに、より贅沢な移動手段を求めている人のためには、クルーズ船ではなくウォールナット材が使われた19の客室と露天風呂が付いた海に浮かぶ旅館とも言える「Guntu」が2017年後半に就航しました。また2019年には、日本で唯一の水上飛行機会社である「せとうち Seaplanes」が、飛行艇コディアック100を使って小さな島々や町を巡る遊覧飛行を行っています。

そして、「Ale」という日本の新興企業が2020年春に瀬戸内の空を世界初の人工流星群で埋め尽くす「シューティングスターチャレンジ」を行う予定です。これは2020年東京オリンピックで披露される先進的な技術です。(アダム・H・グラハム)

## くれワンダーランド構想に向けた取組について

【構成員のお名前】 赤川 安正

【提案する取組の名称】

革新的な和食調理学校の誘致

【取組の概要】

ゼロからの出発で目指す1年での和食料理人の育成

課題：

日本食・和食ブームにも関わらず、優れた和食料理人は国内外で不足している

取組の概要：

革新的な現場実践型プログラムによる和食料理人を育成する

- 調理技術を「修行」から「学び」に変換した現場実践型の実技中心プログラム（1年間）により、学生に将来の夢や目標を具体的にイメージさせ、和食調理技術を短期間に習得させる
- 高校生はもとより、30-40代の職変更者や50-60代の早期退職者、和食に関心を持つ外国人（姉妹都市からも）などを受け入れる
- 著名な和食名人たちや広島県の料理関係団体・調理技能士会のフルサポートによる講師陣を揃え、手厚い教育を実践する
- 国内および海外への就職を斡旋する
- 経営プロフェッショナルを招き、開業や開業後をきめ細かく支援する（仕入れ先から販売促進・マーケティングに至る戦略、市場調査・融資・助成金等の斡旋・店舗取得、など）

期待される効果：

- 若者のチャレンジ・中高年者の再チャレンジの支援
- 若者の流出阻止、Iターン者やUターン者の増加
- 和食名人や和食プロフェッショナルとの交流促進
- 呉のまちの活性化
- 食業界の認知度の向上